

令和7年11月22日開催
戦後80周年記念事業「無言館と松代大本営を巡る親子平和バスツアー」
参加者の感想

寿小学校 6年生

「昔は今とちがって日本でも戦争があつて、たくさんのごせい者がでてすごくこわいと思いました。あんなに長い地下ごうをほつていて、そのつた人の体験などを伝えてわすれないようにしたいと思いました。」

保護者

「子どもの希望でしたので、第2弾の実施はとてもありがたかったです。
無言館に並ぶ作品は、とても穏やかでした。作品には作者の最期の様子や作品を守つてきた方々のやるせない気持ちが短い文で添えられています。やりきれない思いと作品が持つ穏やかさの温度差に深い切なさを感じました。
子どもは、ガイドさんのお話を聞きながら見学した象山壕がわかりやすく心に残つたようです。実際に見聞きして考え「こわい」「いやだ」と思つた気持ちは、戦争を繰り返さないための小さな一歩。戦争を身近に感じ考え、親子で話す良い機会となりました。ありがとうございました。」

菅野小学校 2年生

「ちょっと難しかったけど、いろいろなことを学ぶことができて良かったです。」

保護者

「無言館は、絵や手紙を描いた背景やご家族の気持ちなど考えると何とも言えない気持ちになりました。大本営は小学生の時、見学しましたが改めて行き、初めて知ることも多く自分の住む地域で起こつたことをちゃんと知ることが大切だと思いました。
聞いて知つていることと実際に見て触れることは戦争に対しての距離感が変わり、大人としても良い経験をさせていただきました。」

安曇小学校 4年生

「無言館で、戦争の前に書いた手紙や絵を見てどんな思いで書いたのかと思うと悲しくなりました。やっぱり戦争は、やってはいけないと思いました。松代大本営は、労働者が厳しい環境の中で働かされていること大変だったなと思いました。」

保護者

「何年か前に家族で無言館を訪れた時は、娘はまだ幼かつたので、館内を歩くだけでしたが、今回は、読んだり、見たり、そんなところから成長を感じた。無言館に入った時に館主の窪島さんの言葉の中に「慣れきつた」と言う言葉に衝撃を受けた、言われてみれば、今の生活、平和だと感じる事に「慣れきつて」いると思つた。子ども達との今を大切に生きたいと改めて考えた

一瞬だった。今回は、娘と二人での時間が取れればと軽い気持ちで参加したが、今の幸せを噛み締める事ができた。ありがとうございました。」

菅野小学校 3年生

「私は絵を描くのが好きです。無言館には絵が好きな人の絵があって、戦争で描けなくなってしまって、恐くて悲しかったです。」

菅野小学校 5年生

「松代大本営跡では中に入って見て触ることができて良かったです。朝鮮人の人の戦後の暮らしが気になりました。何回も傷ついて悲しい気持ちになりました。」

保護者

「無言館も松代大本営跡も行ったことはありませんでした。私達が子供の頃に比べて学校や地域での平和学習が減っているように感じ、また、身近に戦時中の話をしてくれる人もいないため参加しました。

戦争の攻撃性や戦時中の苦しい話とは違った切り口で平和の事を学べて良かったです。

特に松代大本営跡では日本も加害国であることも学ぶことができ、説明も分かりやすく良かったです。このような機会をいただきありがとうございました。」

波田小学校 3年生

「昔の人の書いた絵が残っていてすごかったです。手紙とか戦争でなくなった手紙があってかなしかったです。

ダイナマイトの穴が残っていたり、昔の人は大変だったと思いました。」

保護者

「松本に来て 10 年程になりますが、住んでいる所の昔の事、戦争当時の事を考える事はなかったのも、今回は話を聞き、実際に見る事で良かったです。」

清水中学校 3年生

「無言館では絵を描いた人の背景も飾られていて、松代大本営では多くの朝鮮人と日本人がほとんど強制労働に近いものをやらされていて、僕はそれほど日本が終戦間際は必死だったんだなと思いました。

今回参加して得られた事は、戦争で亡くなった犠牲者達の遺産を見れたことです。

戦争はもう絶対にしてはいけないと思いました。」

保護者

「学生の頃学んだ戦争、今になって学ぶ戦争の捉え方が全く違い、今回無言館、松代大本営と訪れ今まで漠然とした大きい枠でしか捉えられてなかったものが具体的に個々のその時の時代背景などが学べてとても考えさせられるツアーだったと思います。」

菅野中学校 2年生

「地下壕の中で仕事をしていた方が暴行を受けていた事に衝撃を受けて、それに暴行を受けた方が病院で笑われたと言うことに怒りを感じました。」

保護者

「(バス内で講座を行った文書館専門員の)木曾さんの話し方がとても上手く、飽きること無く聞き入ってしまう程でバスの中での講座が分かりやすく勉強になりました。車酔いも心配になるなか、ありがとうございました。」

戦争の時の様子など、実体験を元に話をしてくれていた、私の祖母も何年か前に亡くなり、私の身近にはそういった話を聞かしてくれる存在の方が居なくなっていました。木曾さんがおっしゃっていた、教科書だけの平坦な知識だけではなく、実際に目で見たり、実体験の話を聞いたりすることがとても大切、というのが印象的で、本当にその通りだと、今日はそんな気持ちを大切に参加させて頂きました。

無言館では、私の祖母と同じ大正9年生まれの方々の作品も幾つか見る事が出来、言葉では表す事が出来ない何とも言えない思いを胸に過ごしました。

自分の人生観が変わるような、そんな1日でした。

親子で参加する事が出来た事を本当に感謝しています。ありがとうございました。」

開智小学校 2年生

「戦争の、恐ろしさやどんな感じだったのかが、分かってよかったし、無言館に飾ってあった絵はとても悲しそうに見えました。松代大本営はどういう人達が働いていたのかも、わかって良かったし、勉強になりました。ありがとうございました。」

保護者

「松代大本営は以前見学したことがありましたが、無言館は初めてでした。戦地へ向かう直前まで描いていた絵などあり、愛する人との別れは、生きて帰れる保証などなく、どんな気持ちだったのかと、絵を見ながら胸が締め付けられ、涙が溢れてきました。一筆ごとに思いを感じました。」

大本営も弱い立場の人たちの犠牲の上に掘り進められており、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを改めて考えさせられました。

娘と参加でき良い機会でした。ありがとうございました。」

<松本ユース平和ネットワーク>

県ヶ丘高校 3年生

「無言館では画学生たちの遺作の前に立ったとき、深い無念を感じました。才能を持ちながら正当な評価を受ける機会を永遠に奪われ、絵筆を銃に持ち替えさせられた人たちがキャンバスに残した色彩からは、戦争は、個人を傷つけるだけでなく芸術分野にも影響を与えてしまうものであると改めて実感しました。

松代大本営跡では、暗い地下壕に足を踏み入れた瞬間、その圧倒的な広さに言葉を失いました。解説の、この硬い岩盤を掘り進めても、一日に進む距離はわずか一メートルということを知ったとき、ここでの労働がいかに過酷であったか、そしてその背後に朝鮮の方々の多大な犠牲があったことを痛感しました。

また、この場所が沖縄戦をはじめとし、多くの朝鮮の方の犠牲になっており、歴史を多面的に捉える重要性を感じました。」

信州大学 2年生

「今回のバスツアーでは、無言館と松代象山地下壕を訪れ、戦争が残した「負の遺産」と向き合う貴重な時間となった。

特に地下壕建設に動員された朝鮮人労働者の過酷な実態は胸に深く残った。日本人の3分の1の給料で、豪雪の中でも12時間働かせられ、食事も高粱という本来家畜の餌に近いものだったと知り、命を削るような環境だったことが伝わってきた。

事故や怪我よりも病気や飢えで亡くなる人が多かったのに、名簿や記録は意図的に焼却され、犠牲が「なかったこと」にされようとした事実にも強い衝撃を受けた。若手の住職さんでも25人ほどの供養をしたという話が特に印象に残った。

また松代住民の動員や立ち退きなど、日本の加害が多面的に存在していたことも学び、戦争は誰かの犠牲で成り立つという現実を改めて考えさせられた。歴史のしっぺ返しとも言える敗戦を繰り返さないために、事実を知り続けることの大切さを痛感した。」

信州大学 2年生

「松代町の地下壕を実際に見学し、お話を聞く中で、多くの朝鮮人が労働を強いられていた現状や、機械を使って開拓をしていく中で多くの人が病気や飢えで無くなっていたという事実に胸が痛くなった。日本は戦争による被害について包み隠さず良くないことも事実として発表する義務があると感じた。」

※掲載文面については、できるだけ本人の作文を尊重しています。